

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <群馬県 菓子製造業 >  
売上高は前年と変わらないが、原材料・燃料価格の値上がりを受け収益状況は悪化した。4月から一部商品の値上げを検討している。
2. <富山県 醤油・味噌製造業 >  
原材料価格、原油価格、副資材価格等、多くの高騰材料があり、必然的に自社製品の価格改定をせざるを得ない状況になっている。
3. <京都府 パン・菓子製造業 >  
原材料の値上がりが続いており価格改定をしたいところであるが、なかなか大手スーパー等の販売先が認めてくれず困っている。また、ロシアによるウクライナ侵攻で利益も圧迫されている。
4. <兵庫県 食料品製造業 >  
3月は昨年より天候も良くスタートが早く出荷数量ベースでは好調であった。但し、原材料の値上げが多く利益ベースではマイナスとなっている。値上げは来年実施する予定である。
5. <島根県 菓子製造 >  
コロナ第6波の影響で観光客は少なかったが、地元の売上は回復している。当社では首都圏生協様、インターネット通販の売上が好調で、コロナ以前の売上まで回復している。
6. <鹿児島県 味噌醤油製造業 >  
相次ぐ原材料等の値上げで、4月以降に製品価格の改定を計画する事業所が増えた。とは言え、市場での価格競争力が弱い事業所が多く、他同業者の動きを見ながら対応していく。

#### 繊維・同製品製造業

7. <山形県 成人女子・少女服 >  
呉服・服地は動きは少しずつ出てきているが、昨年からの原材料の値上げと新年度からの加工賃の値上げに対応していけるか、今後の事業活動を不安視している。
8. <栃木県 網・レース・繊維粗製品 >  
コロナ再拡大、原料値上げ、ウクライナ問題、円安等、不安要素だらけである。組合内でも受注内容は明るくなく、皆一様に先行きは不透明で不安な様子である。
9. <富山県 絹人織織物 >  
原材料費や原油価格の上昇により石油製品や副資材も値上りしている。化合織織物は、製品価格へ転嫁したいが困難である。絹織物は、4月から得意先に商品の値上げをお願いしている。
10. <京都府 染織整理 >  
原材料仕入単価が高騰しているが、売上単価が変わらず経営を一層圧迫している。振袖以外のフォーマルをはじめ一般呉服の引合いの低迷が続いている。
11. <山口県 外衣・シャツ >  
糸、資材、ハンドリング（運賃等手数料）、工業用オイル、包装資材等、各10%値上げの通知が来ており、コストアップが生じている。給料をあげても人を雇いたいが、相応しい人材がいない。
12. <香川県 手袋 >  
国内市場は厳冬の影響もあり、店頭での流通在庫は減ったものの追加発注が殆ど無く、厳しい状況は変わらない。堅調であったゴルフ・野球等のアウトドア手袋の受注も一段落してきている。

#### 木材・木製品製造業

13. <青森県 製材 >  
県内の製材所は依然として厳しい状況に変わりないが、輸入材が制限（ウッドショック）され、国産材に転換しており、一般住宅の構造材はスギ・ヒノキの国産材を中心に活況を呈している。
14. <埼玉県 木材・木製品 >  
山の関係は、造林作業から伐採搬出作業へと主作業の切り換えを行っている。製品関係では、コロナ、ウッドショックの影響もなんとか抑えられたが、世界情勢が不安定で先行き不透明である。
15. <石川県 製材業、木製品 >  
ウクライナ情勢によるロシア・ヨーロッパからの供給不安によりドル・ユーロ高が急速に進み、また木材価格が上がるのではないかと感じている。今後は国産材に不足感が出てくる可能性がある。

16. <和歌山県 家具 >  
材料価格や石油価格の絶え間ない上昇に伴い、コスト管理が問題になってきている。価格転嫁も容易ではなく、どこまで対応していけるのかが不安要素である。
17. <熊本県 一般製材 >  
ウッドショックの影響で国産材の需要が高まり、価格・引合い共々増加傾向である。地域の実情より、乾燥機を有し生産量も比較的大規模な工場は全体的に順調と思われる。
18. <宮崎県 製材業(プレカット) >  
年明け1月からプレカット受注は若干減少になっている。住宅資材の不足や、人手不足が要因と考えられる。また、牛舎が多かった時期からすると減少傾向にある。

## 紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >  
生産数量は前年同月並みであり、比較的良かった。4月からは原材料の価格が上がり、収益が悪化する懸念がある。お客様に価格の改定をお願いしているが、早くても5月からになる。
20. <東京都 紙製品 >  
紙製品・文具業界においても値上げが本格化するとみられ、厳しい状況が続いている。結婚式場の利用が前年と比べて増えてきた。これにより祝儀用品、のし袋などの需要が伸びてきた。
21. <岐阜県 特殊紙 >  
原料高・原油高により収益率が下がっている。コロナ禍後も取引先は慎重なところが多い。少ない量を早くほしいといった難しい要望に悩まされている。
22. <大阪府 古紙収集加工 >  
3月も古紙の発生は悪い。特に雑誌・新聞は紙離れで、前年度比でもかなり厳しく、白物古紙もペーパーレスにより大幅な減少となっており、段ボール古紙だけが前年並の見込みである。
23. <高知県 機械すき和紙 >  
家庭紙主原料であるパルプ価格が再度上昇傾向、同時に為替が円安に振れ、ダブルパンチを受けている。その他、資材、薬品、運賃等々の高騰を受け価格転嫁に動いているが、難航している。
24. <佐賀県 製紙・販売・印刷・加工 >  
原材料の他副資材、消耗品、燃料、製造原価に関わるものほとんどが値上げ要請となっている。価格転嫁の要請を取引先に理解していただきたい。

## 印刷

25. <宮城県 印刷・同関連 >  
印刷用紙や印刷資材等の原材料価格及び最低賃金の改定、原油価格等の高騰によるコストアップが進んでいる。一方、価格転嫁は民需・官公需共に進んでいないため、収益を圧迫している。
26. <栃木県 印刷 >  
需要が減る中で材料(インキ、版など)が値上がりしており、紙も値上がりしている。今年中には再度値上がりが予測される。価格転嫁できるような環境づくりが必要と考える。
27. <石川県 印刷 >  
購入した製本加工機器が、世界的な半導体の供給不足から生産が計画通りに進まず、機器の搬入が半年から8か月以上となっており、印刷物の加工ができないままとなっている。
28. <大阪府 シール印刷 >  
原油価格の高騰に伴い、原紙を含む資材の高騰が収益を圧迫しつつある。資材は平均で10パーセント強値上げで推移し、逆に販売価格は据え置きに近い状況が続いている。
29. <奈良県 印刷 >  
印刷用紙は1月から値上げになり、オフセット用印刷インキも続々とメーカーが値上げに踏み切っている。このままでは厳しい運営が強いられるため、値上げをしなくては事業の継続は困難である。
30. <宮崎県 印刷・同関連 >  
働き方改革により、人件費が増加し、労働時間の確保が重大な問題になる。技術者を育てるためには多くの時間が必要で、そう簡単には休日を取れないのが現状である。

## 化学・ゴム

31. <東京都 ゴム製品 >  
前年度より多少動きがよくなってきたが、自動車業界が苦戦を強いられているため、予想より回復していない。原油高から製造経費が上昇し厳しさが増しており、先行きは良くない。
32. <神奈川県 石油製品 >  
今期も前期同様にコロナに悩まれた一年であった。ある組合員は「今期売上は前期比103%だったが、収益面では前期に及ばなかった。一年を通し先が読めない年であった。」と語っていた。

33. <愛知県 高圧ガス >  
エネルギーコスト上昇に伴う原料ガスの仕入れが上昇中であり、ユーザーとの価格是正の作業中であるが、ユーザーの業況も厳しく、難航している。
34. <京都府 プラスチック製品 >  
業況は徐々に悪くなってきている。はじめは業況は好転とした企業も徐々に不変というようにならなくなってきた。原材料の高騰が要因である。
35. <島根県 プラスチック製品 >  
製品売上、受注状況については引き続き堅調で推移しているが、昨年の売上が突発的に高かったため、昨年度比99%となっている。原材料や資材価格の高騰で、利益率が悪化している。
36. <広島県 プラスチック製品 >  
自動車関連種々の要因で3月・4月は減産傾向にある。また、ウクライナ情勢で、原油高騰により樹脂原材料等資材の価格が高騰している。

#### 窯業・土石製品製造業

37. <岩手県 生コンクリート >  
昨年末近くからセメントメーカーが大幅な値上げを表明し、本年1～2月にかけて実施されている。更に骨材、混和剤や燃料油の高値も継続し、各社の収益が悪化してきている。
38. <大阪府 砕石加工 >  
最大の取引先である生コン業界の売上が増加しているなか、販売価格の値上げができた。生コン業界における支払条件が現金払いに改善されたことにより、取引条件は好転した。
39. <和歌山県 窯業・土石製品 >  
コロナの影響もあり民間工事の受注減が目立つ。また、公共工事は発注額は変わらないが、新設工事が少なく補修や改良工事が目立つ。
40. <山口県 コンクリート製品 >  
3月末頃から鋼材、木材、運賃等の仕入全般において、値上の案内が続々ときている。開始時期は「6月1日からの納入分より」の案内が多いように感じる。平均で約15%アップする。
41. <愛媛県 石材加工 >  
3月は春のお彼岸需要とその関連工事により好調に推移した。来月も受注残があり好調を維持できる見込み。但し、内容を見ると移動・改修と撤去が半分程度あり、現在の世相を反映している。
42. <沖縄県 コンクリート製品 >  
3月は売上・出荷量共に対前年4割減となった。受注金額も対前年6割減となっており、道路工事発注量の大幅な減少に伴い、出荷量の急激な減少が続いている。

#### 鉄鋼・金属製造業

43. <福島県 鉄工 >  
先月同様、鋼材の他、溶接材・ガス・塗料等10%の値上げ。鋼材分の値上げを認められても加工費の値上げが難しく、利益に大きな影響が出ている。
44. <群馬県 電気めっき >  
原材料は高騰しているが価格転嫁は容易ではなく収益状況は悪化した。自動車メーカーでは生産調整が頻発しており、先行きは不透明である。
45. <埼玉県 鉄鋼・金属 >  
全体的に受注量は比較的安定しているが、輸出関連部品に一部生産数の減少が見られる。円安がこのまま定着した場合、主要原材料価格の上昇と販売数量の低下につながるおそれがある。
46. <岐阜県 鋳物 >  
今年度に入り景気拡大が続いていたが、前年並みの稼働状況に落ち着いてきた。全体の工場稼働率は組合員平均で91%程度である。人件費増に関する値上げが浸透しづらく苦慮している。
47. <高知県 刃物・金物類 >  
売上高は増加したものの、コロナの関係か小売業への納品額は減少している。海外向けの品物と4月からの値上（価格改定）を前に受注が増加した。
48. <熊本県 異業種 >  
機械設備を新しく導入したりしている企業が数社見られる。IC、半導体関連は昨年度より1.5倍程度伸びている。

#### 一般機器製造業

49. <北海道 金属製品 >  
造船各社は6年ぶりの円安で業界に追い風が吹き込んでいる。鋼材費や船舶用製品の値上がり足枷となるものの為替利益が見込まれ、損益改善につながっている。

50. <新潟県 機械器具 >  
材料購入単価の上昇分とその他の仕入部分（油脂、電気代等副資材含む）の上昇はあるものの納入単価への転嫁が出来ず、収益悪化となっている。
51. <山梨県 業務用機械器具 >  
半導体製造関連や工作設備関連機器の受注は好調で、前年同月に比べ売上げは10%増加した。しかし、材料価格が高騰し入手も難しい状況にあることから、収益に大きな影響が出ている。
52. <大阪府 一般産業機械 >  
コロナ禍とウクライナ情勢により、自動車生産量減がメーカーより発表されている。新車納品も数ヶ月先の見込みとなっている。組合員は自動車部品製造が大部分のため、生産量減が予想される。
53. <山口県 一般産業用機械・装置 >  
昨年と比べ、年度末の駆け込みの注文が多かったように思われる。感染者も増えているが、以前のように業務が全て止まることなく来てきているので、影響も少なくなっている。
54. <福岡県 一般機械器具 >  
電気使用量は前年同月比102.2%（前々年同月比104.7%）である。組合員によってバラつきはある。全般的に設備操業度は上昇傾向にある。

### 電気機器製造業

55. <東京都 配電盤 >  
素材、部品類の値上げが続き、調達難が継続している。比較的先の受注はあるものの短納期の受注はストップさせている。コスト上昇要因が重なり収益悪化の長期化を懸念している。
56. <長野県 電子機械器具 >  
2月に続き、原材料不足、半導体不足による商品未完成など依然として課題が多い。自動車部品業界はロシア影響によるヨーロッパ物流の停止があった。工場の営業停止も広がりを見せている。
57. <静岡県 電気機械器具 >  
大型冷蔵庫は販売好調で、生産は高水準を維持している。家庭用エアコンは調達問題が影響し需要に供給が追いつかず、業務用は昨年同等レベルとなったが、調達問題がネックとなっている。
58. <愛知県 配電盤 >  
部品、原材料の納入が遅くなっているため、納期がどんどん遅くなっている。納期に間に合わせようとすると、残業が集中してしまう。一時の理想的な「働き方改革」はどこへ行ってしまったのか。
59. <三重県 電気機器 >  
期末に受注増加を期待したが、急激な動きはなく、例年より10~5%ダウンの状況で推移した。主材料、副資材は次々に値上げとなり、経営を圧迫しかけている。
60. <長崎県 電気機器 >  
コロナの影響で受注が減少していることから、当面の売上減少は避けられない。部品の欠品や納期遅延があり、客先への納入に時間がかかるため、受注に影響している。

### 輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品 >  
潜在的な受注は上向き傾向にあるものの、一部の部品供給が停滞していることから、売上に悪影響が生じている。
62. <神奈川県 船舶 >  
造船の主な原材料の鋼材価格が異常に上昇している。価格は1.5倍、納期は2倍になり更に上昇の構えを見せている。価格や納期の先行きが見通せなくなっている。
63. <三重県 輸送用機械器具 >  
サプライチェーンからの供給の混乱により各自動車メーカーもバックオーダーに対してなかなか挽回生産できない状況が続いており、3月の実績も予定していた計画に対して減産することになった。
64. <兵庫県 輸送用機械器具 >  
売上は前月比3.7%増収、前年同月比1.9%の減収。部門別(対前月比)では、船舶部門が12.2%、プラント環境部門が79.8%の減収、機械部門が43.8%、精密機械部門が1.4%の増収となった。
65. <愛媛県 造船 >  
造船業界は今年になってから、大型船台は船価も期待するほどではないが改善がなされ順調に仕事量を増やしているが、中小型船台はまだ十分な仕事量を確保できていない。
66. <大分県 造船 >  
本社請負元の建造船がプロダクトタンカーからバルク船に4月より本格的に移行した。各社、提示された工事請負金で採算がとれるか、大きな転換期を迎えている。

## その他の製造業

67. <北海道 建具 >  
事業所によって受注状況の偏りはあるようだが、店舗系、住居系、サービス業系全般的に慢性的な人材不足による受注の限界があり、通年での売上が以前と比較すると難しくなっている。
68. <秋田県 漆器 >  
例年、退職や移動の季節である3月は、記念品等の商品が動く傾向にあるが、今年は非常に少ない結果となった。
69. <東京都 ガス圧接 >  
決算期であっても駆け込み需要はなかった。業界が底冷えしている。全てがマイナスの方向に進んでいる。受注単価は決算期特需がないため4月から受注単価は下降し始める可能性がある。
70. <福井県 眼鏡 >  
国内向けは堅調。海外向けは米国向けOEMが大幅受注増。しかし、原材料の高騰・品薄の影響で生産枚数の制限があるため、受注残が膨らんでおり、収益確保と資金繰りは厳しさを増している。
71. <奈良県 毛皮革 >  
毛皮加工は、安定して受注している事業所もあるが、産地全体として受注量は減少してきている。鹿皮処理に係る薬品の単価上昇により利益を圧迫されており、価格への転嫁も検討している。
72. <香川県 漆器 >  
百貨店等の催事は少しずつ再開しているが、売上はまだ低調で、原材料は漆をはじめ木材も4月から大幅な値上げになりそうで、今後の対応が厳しくなりそうである。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <宮城県 ゴム製品 >  
コロナ感染症がなかなか収束せず、製品材料等の不足が深刻になっている。その結果、仕入価格は益々高騰を続けている為、持ち直しつつあるように感じた状況も歯止めがかかっている。
74. <神奈川県 リサイクル >  
古紙市況は、年度末で市中発生量は増加傾向にあるが、品薄状態は解消されておらず問屋在庫も低水準が続いている。輸出の引き合いも活発で、アジア向けに限らず米国の需要も増えている。
75. <鳥取県 水産物 >  
紅ズワイガニの水揚げ量は例年並みとなったが、輸入を含めカニ類の絶対的不足感から秋以降の製品備蓄の思惑も働き、昨年を大きく上回る浜値高で推移した。
76. <広島県 電設資材 >  
2021年度の下期物件見積状況は、マンション物件及び非住宅部門ともに堅調に推移した。しかし、官公庁物件は前年割れと今後も厳しい状況で、省エネ商材の案件に期待したい。
77. <高知県 生鮮魚介 >  
カツオは順調に入荷しているが、マグロは高値の入荷が続いている。去年と比較すると需要はあり、全体的に高値の仕入れのため、売上高は高くなっている。但し、利益率は・・・。
78. <大分県 野菜・果実 >  
生鮮品は消費の変化は見られないが、一般食料品は値上食品が多く、販売減となっている。行商（トラック等で販売する人）は、燃料費の高騰で利益状況が悪化している。

### 小売業

79. <宮城県 花卉 >  
当月売上については、前年同月対比で90.0%と昨年を1割下回った。引き続き品不足の状態、それに伴い取引価格が高値で推移したため一般の小売店が商品確保に苦労した月となった。
80. <茨城県 共同店舗 >  
当月もコロナ影響を受け、状況に大きい変化はない。特に客数は依然として厳しい。その中で、前年同月比で飲食に少しずつではあるが回復の兆しが見られる。
81. <千葉県 中古車仕入・販売 >  
半導体の供給不足やオミクロン株の流行に伴い、新車工場の稼働調整として対ロシア制裁開始に伴い、中古自動車の品薄がまだ続きそうだ。新車の納車遅れは更に延びそうな状況である。
82. <東京都 時計宝石眼鏡 >  
メーカー各社は業況回復しているが、小売店は二極化が進んでいる。これまでの流通形態にない通販やメーカー直販による販売や商品が増加し、小売店が販売できるものが減少している。
83. <高知県 中古自動車 >  
展示車両の確保が厳しいが、注文買いの件数が伸びているので売上高、販売台数は前年同月と同水準となっている。しかしながら、業界全体の相場価格の上昇により利益確保が難しい。
84. <沖縄県 飲食料品 >  
店舗売上は昨年の売上がかなり低かった事と一部値上げ実施により、全店舗が前年を上回った。客数推移は、離島店は前年比増だが、競争の激しい本島内は前年比98%と苦戦した。

### 商店街

85. <青森県 商店街 >  
相変わらずの新型コロナの感染者数ではあるが、3月下旬には新生活商戦もあり人出が見られた。春めいた天気の影響もあり、来街者は増加している。
86. <神奈川県 商店街 >  
全体の売上は先月の2桁近い落ち込みから改善傾向にある。また、蔓延防止等重点措置が解除され、約3割の店舗が前年売上を超え、多少明るい兆しである。
87. <石川県 商店街 >  
春になると人通りも多くなり、まん延防止処置も解除され、3月後半から一気に人流が増え、3月前半とは比べものにならないほど消費は増加している。

88. <京 都 府 商店街 >  
3月に入り、感染者は緩やかな減少傾向にあった。まん延防止等重点措置が解除となり、飲食店には客が戻ってきたように思う。また、商店街内も徐々に通行量が多くなってきた。
89. <愛 媛 県 商店街 >  
3月も新年度に向けての準備で、売上が上昇した業種も見られたが、それは、ごく一部で、全体の動きは鈍い状況が続いている。未だにコロナ影響での人出減による売上減は継続している。
90. <鹿 児 島 県 商店街 >  
オミクロン株の継続的な発生もあり、まだ戻り切らないのが現状である。土産店等は修学旅行の需要が増え、飲食店は閉めている店舗もあるが、まん防解禁により戻りつつある店舗もある。

## サービス業

91. <青 森 県 葬 祭 >  
葬儀の小規模化、売上の減少、仕入れの値上がり等による粗利の減少と、働き方改革による齟齬とサービスの低下が顕著に表れてきている。地元の零細企業が淘汰されつつある。
92. <茨 城 県 ホテル・旅館 >  
コロナ禍の制限の緩和もあり、県内よりも県外からの宿泊者（ビジネス・観光）の増加が見られ売上は上昇傾向である。しかし、リネン・食材・清掃費・燃料費の高騰は収益をかなり圧迫している。
93. <石 川 県 旅館、ホテル >  
全体的に宿泊予約は徐々に増加傾向にはあるが、GWの予約等も昨年に比べてあまり芳しくない状況が続いている。当月も休館旅館がみられ、旅館操業度が低下している。
94. <長 野 県 自動車整備 >  
車検については、コロナの影響は殆どなく入庫してきている。但し、新車販売がだいぶ落ち込んでいるので、来年・再来年の車検台数にかなり影響が出てくると思われる。
95. <高 知 県 普通洗濯 >  
ホームクリーニング売上は微減。チェーン店は、人件費・家賃の負担割合が大きく苦戦している。ホテルリネンも観光客が戻らず苦戦。病院リネンは売上が堅調である。
96. <佐 賀 県 ソフトウェア >  
半導体不足の影響により、パソコンやサーバー等の納期遅延・未定がメーカー各社で発生している。IT業界として顧客への納入やサービス提供の時期が不透明ともなっている状況である。

## 建設業

97. <群 馬 県 一般土木建築工事 >  
建材価格が高騰しており、収益状況・資金繰りが悪化した。公共工事だけでなく、民間工事の需要も落ち込んでおり、明るい見通しが立たない。
98. <富 山 県 鉄骨・鉄筋工事 >  
鋼材の急騰や図面承認遅れと工期のズレの常態化など、鉄鋼加工業者にとって重大な問題が多い。更に、世界情勢による不安要素が多く、今後の状況が心配である。
99. <静 岡 県 総合工事 >  
民間工事はいつまでも続く材料価格の高騰、職人を含む人件費の上昇により工事価格が上昇し、新規工事の着工が延期されている。官庁工事も予算消化の見積・少額の小口工事がある程度。
100. <滋 賀 県 電気工事 >  
業界では半導体不足が注視されているが、それに加えて昨今、中国のロックダウンの影響で資材の納期が更に遅延するようになってきており、工期にもかなり影響が出ている。
101. <兵 庫 県 設備工事 >  
当業界では、あいかわらず悪質業者による高額請求のトラブルが発生している。先日、当組合が受託している「水道修繕受付センター」業務の電話受付の様子が放送された。
102. <福 岡 県 床・内装工事 >  
各材料メーカーの値上げのみならず運送費や工賃などもアップしている。また、ガソリンや食品などの値上げもあり、所得が増えなければ家計は苦しく、企業の倒産も危惧される。

## 運輸業

103. <宮 城 県 軽運送 >  
引っ越しシーズンとはいえ、あまり実績はあがらず、少なめであった。コロナ関連の配送業務が増えている。他社が配送業務からはずれ、その分当組合に流れてくるようになったことは大きい。
104. <群 馬 県 一般貨物自動車運送 >  
地域、荷主業種によって荷動きの差は生じている。燃料価格は政府による対策が講じられるも更なる値上がりとなり収益状況は悪化している。尿素水の供給は安定しつつある。

105. < 福 井 県 物流事業 >  
高速道路の利用状況は、対前年同月比で僅かに増加。軽油価格の高止まりにより利益が出てこないため、最近では割に合わない仕事は断るようになっている。
106. < 兵 庫 県 道路貨物運送 >  
運送業を取り巻く問題は、一つや二つではないが、とにかく今は原油価格の高騰、これに尽きる。政府の対応、荷主の協力なしには、もはや成り立っていけない。
107. < 広 島 県 道路貨物運送 >  
3月は貨物も人の動きもあるのではと期待したが、対前月、対前年同月で大きな変化はなかった。人事異動に伴う引っ越しでは、件数や規模もコロナ前と比べると変わりつつある。
108. < 熊 本 県 一般貨物自動車運送 >  
食料品は値上前で特に動きが良かったが、全体的に荷物は動いた。しかし、燃料価格が高止まりの状況で大変苦しい。色々な値上のニュースがあるが運賃も上げてもらいたい。

#### その他の非製造業

109. < 宮 城 県 不動産 >  
不動産賃貸は、コロナ禍の中では少なかった住み替え希望者の増加や、転勤者には30㎡以上の広めの賃貸マンションの引き合いが多かった。
110. < 千 葉 県 輸出入 >  
成田空港の3月の旅客数は、先月の対前年比を10%ほど上回る見込み。まん延防止等重点措置終了になり国内旅行客の増加は期待できるが、国際便の増加は依然足踏みの状態である。
111. < 新 潟 県 砂利採取 >  
3月の骨材生産量は前年同月比で102.4%と数字上は増加とみえるが、前々年同月比では101.2%であり、漸く前々年並みまで回復した。今後も第2四半期の状況を注視したい。
112. < 山 梨 県 老人福祉・介護 >  
雇用人員が減少し、仕事の依頼はあるが断っている状況。従業員募集をしても応募がなく、人材不足が課題である。
113. < 岡 山 県 信用組合 >  
第6波の回復は50%以下で、原油高騰による仕入価格高騰の影響も出始めている。今後コロナと原油高騰の影響を補う資金繰り支援を手厚く行い本業支援も含め総合的に支援を継続する。
114. < 広 島 県 不動産 >  
不動産市場は、コロナ禍やロシア情勢により先行き不透明感はあるものの、戸建て需要は低金利政策等により堅調に推移しており、建築素地不足による業者の土地仕入価格上昇が続いている。